

平成 26 年 7 月 7 日

各 位

会社名 国際石油開発帝石株式会社
代表者名 代表取締役社長 北村 俊昭
(コード番号 1605 東証第一部)
問合せ先 広報・IR エキットジェネラルマネージャー 橘高 公久
電話番号 03-5572-0233

オーストラリア イクシス LNG プロジェクト
沖合生産・貯油出荷施設 (FPSO) の進水について

国際石油開発帝石株式会社（以下、当社）は、オーストラリアで操業主体（オペレーター）としてプロジェクトパートナーとともにイクシスLNGプロジェクト（以下、本プロジェクト）の開発作業を進めております。本プロジェクトの主要生産施設の一つである沖合生産・貯油出荷施設（以下、FPSO：Floating Production, Storage and Offloading※）については、本年2月より建造地の韓国オクポにあるドライドック内でFPSO船体の建造・建設作業を進めてまいりましたが、昨日、FPSO船体の進水を行いましたので、お知らせいたします。

※ 本 FPSO は、長さ約 336 メートル、幅約 59 メートルと大型原油タンカーに匹敵する大きさであり、本プロジェクトから生産されるコンデンセートを一時的に貯蔵するもので 100 万バレル超の貯蔵能力を有します。貯蔵されたコンデンセートは、FPSO から出荷用タンカーにて出荷されます。



FPSO 進水の様子

今後、進水した FPSO 船体に世界各地から調達する主要機器を上載機器として据え付けし、完成後約 5,600 キロメートル離れたイクシスガス・コンデンセート田の洋上に曳航・設置・係留される予定です。

FPSO 船体の進水は、イクシス LNG プロジェクト推進における全体スケジュールに沿うものであり、当社は、この他の主要施設である陸上ガス液化プラント（LNG プラント）及び沖合生産・

国際石油開発帝石株式会社

INPEX CORPORATION

処理施設（Central Processing Facility）の建造・建設やガス輸送パイプラインの敷設についても並行して作業を進め、本プロジェクトの2016年末までの生産開始を目指します。

当社は、今後も、本プロジェクトに関係する地域コミュニティの方々、連邦政府、西豪州政府および北部準州政府等のオーストラリアの関係者やプロジェクト関係者の方々のご理解とご協力を得ながら、このプロジェクトの成功に向けて引き続きまい進する所存です。

以上

イクシス LNG プロジェクト

イクシスLNGプロジェクトは、当社が操業主体（オペレーター）としてトータル社、東京ガス、大阪ガス、中部電力および東邦ガスとともに、オーストラリア連邦西豪州沖合に位置するイクシスガス・コンデンセート田より産出される天然ガスを、オーストラリア連邦北部準州のダーウィンに建設するガス液化プラントにて液化し、年間840万トンのLNG（液化天然ガス）および年間160万トンのLPG（液化石油ガス）として生産・出荷するとともに、FPSO等から日量約10万バレル（ピーク時）のコンデンセートを生産・出荷する計画です。本プロジェクトは、40年という長期にわたって稼働が見込まれる世界的にも大規模なLNGプロジェクトです。当社は、1998年の公開入札により本プロジェクトが位置する鉱区の探鉱権を取得、その後の探鉱・評価作業や基本設計作業などの開発検討作業を経て2012年1月に最終投資決定しました。現在、2016年末までに生産を開始すべく順次開発作業を実施中です。

特設サイト - イクシス LNG プロジェクト

イクシス LNG プロジェクトの詳細は、特設サイトにてご確認ください：

<http://www.inpex.co.jp/ichthys/index.html>